

文化財 ニュース

8 Summer 2015

■ 平成27年度 文化財企画展 「学童疎開からみる子どもたちの生活」 開催

会期：平成27年7月21日(火)～8月9日(日)

時間：月～金 10:00～20:00

土 10:00～19:00

日・祝 10:00～17:00

会場：日比谷図書文化館1F

特別展示室(入場無料)



「集團疎開日誌」(麹町小学校所蔵)：(写真左)
「集團疎開図譜 食事」(服部嘉夫氏所蔵)：(写真中央)
「集團疎開図譜 動物飼育」(同上)：(写真右)



今から70年以上前、日本が戦争をしていた時代に、国民学校3年生～6年生にあたる子どもたちが体験した学童疎開について取り上げます。戦争が激化し、日本への空襲が始まると、子どもたちを都市から郊外へ疎開させる計画が立てられます。

最初は、親類などを頼った縁故疎開が行われますが、なかなか進まず、特定の地域を割り当て集団的に疎開させる方針が取られます。千代田区の場合は、麹町地区は山梨県に、神田地区は埼玉県に、地域が割り当てられています。

この展示では、家族と別れての生活、子どもたちだけでの集団生活を送らなければならなかった様子などを、写真・絵画・手紙・疎開日誌などで紹介します。この夏、当時の子どもたちの疎開生活や、親と子の絆を考えてみませんか。(高木)

● 展示解説

以下の日程で担当学芸員が展示解説を行います。時間になりましたら、1階特別展示室の入口付近にお集まりください。(所要時間：30分程度・予約不要)

■ 7月25日(土) 14:00～

■ 7月28日(火) 18:30～

■ 8月 6日(木) 14:00～

Index

2 平成27年度 新指定文化財の紹介

4 千代田区文化財保護調査員の活動

6 収蔵庫から 仁杉家の雛道具と中村一之

7 埋文ニュース 文部科学省構内から
発見された戦時中資料

8 新刊報告書紹介 文化財調査報告書26

『疎開日誌—区内幼稚園・小学校関係資料調査報告書—』

平成27年度 新指定文化財の紹介

千代田区教育委員会は、平成27年4月1日付で、新たに2件の文化財を指定しました。
このコーナーでは、指定した2件の文化財を紹介します。(小杉)

旧道路台帳図面（麹町区・神田区）85点 附、道路台帳路線一覧図（麹町）1点 種別：有形文化財（歴史資料） 所有者：千代田区教育委員会

本件資料は、大正8年（1919）に公布され、翌9年（1920）に施行された旧道路法に伴い、東京市役所において作成された道路台帳に附属する図面である。旧35区について作成されていますが、そのうちの麹町区と神田区の「道路基帳平面図」と平面図の範囲を地図に区割りした「道路基帳路線一覧図」が千代田区所有となっています。

「道路基帳平面図」は、麹町区が55葉、神田区が29葉あり、図面の縮尺は1 / 600となっており、収録範囲内の官公署・教育機関などの施設名や川、橋、道路幅員、市電路線、土地区画、街路樹などが書き込まれています。

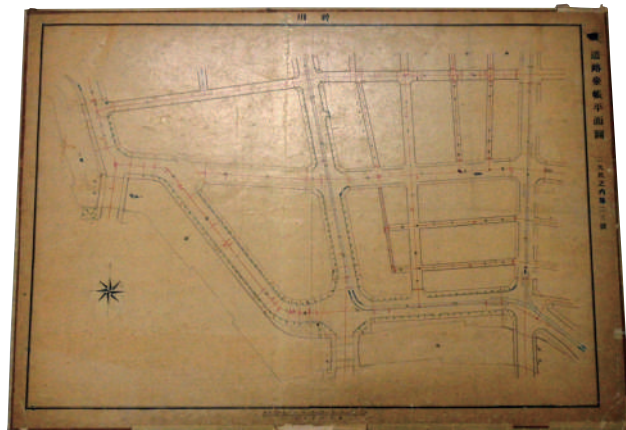
「道路基帳路線一覧図」は、麹町区・神田区で各1

葉があり、麹町・神田の各図面に、平面図の範囲が朱線で区割りがされ、図面番号が算用数字で記入され、また道路名や施設名が記載されています。ただし、麹町区の「道路台帳路線一覧図」は、昭和22年（1947）から昭和30年（1955）の間に作られた地図に図面範囲を区割りしたものであり、震災復興時に作成された図面ではないが、55葉ある平面図の位置関係をたどるためには必要な図面であるため、附として加えることとしました。

本件「旧道路台帳図面（麹町区・神田区）」は、関東大震災の復興に伴う区画整理事業等が完成し、整備された段階で作成された図面類であることから、震災復興期の千代田区内の道路の詳細及び都市施設等について知ることのできる資料といえます。また区に残る最も古い道路図面であり、戦災復興およびその後の道路変革の激しい千代田区にとって、震災復興後の都市計画の過程を知るうえで貴重な資料です。



道路基帳路線一覧図（神田）



道路基帳平面図（神田）

ひとくちメモ

指定文化財とは

千代田区には、さまざまな文化財があります。そのなかでも特に千代田区の歴史や文化に深く関わり、後世に引き継ぐべき文化財については、千代田区文化財保護審議会で審議し、指定文化財となります。現在、区指定文化財は72件となっています。



筆塚 1基

種別：有形民俗文化財

所有者：平河天満宮

筆塚は、おおむね2種類に分けられ、ひとつは長年使用してきた筆を供養して埋めた塚を示し、2つめは寺子屋や私塾で教わった教え子が師匠を顕彰するために皆でお金を出しあって建てた供養塔のことを言います。ふたつめについては、弟子や教え子のことを筆子と呼ぶことから「筆子塚」という場合があります。筆塚はおもに寺社の境内や墓所に所在することが多いようです。

本件「筆塚」は平河天満宮（平河町一丁目）の境内にある平河稻荷神社の側に所在します。材質は緑色片岩で、銘文は陰刻で正面中央に「筆塚」、正面右端に「嘉永五壬子年二月良辰」、正面左端に「榎庵蟻道書（印）」、印文は「榎菴」と刻まれています。なお、側面及び背面には、銘文は見られません。

銘文によれば、嘉永5年（1852）2月に奉納され、「筆塚」の文字は「榎庵蟻道」という人物の揮毫

と考えられます。

奉納された嘉永5年（1852）は菅原道真の950年忌にあたり、『武江年表』には平河天満宮が2月25日から60日間の開帳を行なったことが記されています。この平河天満宮開帳の際の奉納物を示す資料として、早稲田大学演劇博物館所蔵の摺物「嘉永五年二月廿五日より平河天満宮開帳奉納付」（3枚組）があり、これは開帳参詣客の見物を当て込んで、数多くの奉納物描かれており、狛犬・常夜燈・石牛・天水桶とともに2基の筆塚が描かれています。

本件「筆塚」は菅原道真950年忌を記念して開帳の際に奉納されたものと考えられ、平河天満宮の氏子や学芸・技芸に携わるものたちにとって、950年忌という節目が重要視され、それに合わせて開帳行事や奉納行為が盛大に行われています。本件資料はそれを示す資料のひとつとなります。

平河天満宮には菅原道真950年忌に奉納された狛犬・百度石・常夜燈・牛石がいずれも有形民俗文化財として文化財指定されています。



平河天満宮所在の筆塚

千代田区文化財保護調査員の活動

教育委員会は、千代田区文化財保護条例に基づき、文化財保護調査員を設置しています。

平成26年4月1日に、文化財保護調査員として初の区民からの公募により、7名を委嘱しました。ここでは、平成26年度の取り組みと各調査員の活動を報告します。

文化財保護調査員は、区民の中から、文化財に造詣が深い方、もしくは区の歴史・文化資源について関心があり調査などにも従事する意欲がある方を対象として公募し、選考のうえ委嘱しました。任期は、平成26・27年度の2年間になります。

調査員の職務は、区内に所在する文化財に関わる資料及び情報の収集整理、および文化財保護思想の普及啓発です。主な活動としては、区内を7つの地域に分け、担当地区の文化財関係標識類及び指定文化財等の現況調査を行い、不具合などを報告するなどの「文化財パトロール」の役割や、区の歴史・文化資源に関する調査（文化資源の掘り起し、史跡めぐりコースの提案など）にも取り組んでいます。

区内の文化財を起点として、区の歴史・文化資源を調査し、精通してもらうことで、その魅力を広報できる人材として活動することを期待しています。

【A地区担当】 日置 信子

江戸城は約800年にもおよぶ長い歴史をもち、ほぼ同一の場所を城地とし、現在では皇居として、生きつづけています。

江戸城は、明治維新以来の100余年のあいだに主要な建造物はすべて消滅し、現在では堀と石垣、それにわずかな櫓と城門の姿を残すだけとなっています。

石垣を観察してみると、マークのような印があります。城を築いた際、なんらかの目印に彫り込んだもの、これが刻印石です。

江戸城を歩き、石垣と刻印石を探して歩くことで、昔の人々の生き方や想いを感じられます。石垣だけみてもそれぞれの城で特色があり、城は複雑ですが、おもしろいものです。

【B地区担当】 松下 益雄

「文化財パトロール」は担当エリアを12ヶ月に区分し現況・不具合等を報告しています。活動で感じたのは、経年劣化による標柱・説明板等の傷み、心ないいたずらでの汚損・破損がある事、残念に思いました。

調査テーマは、関東大震災関係の記念物の現況調査ですが、区内は震災・戦災の復興発展が著しく、

その面影を見つけにくい地域です。しかし、東日本大震災の奇跡の一本松に匹敵する「震災いちよう」が皇居の濠端に樹齢150年超の命を継いでおり、佐久間公園・和泉公園には住民が一致団結して町を守った活躍とその智慧がしるされています。これからも、町中を調べ歩きたいと考えています。

【C地区担当】 梁川 幸子

仙台濠（外濠）が「神田川」になって、50年が経過しました。江戸城城郭は、一大名と諸大名によって造られましたが、この一大名が、仙台の伊達氏です。仙台濠は牛込橋から和泉橋までの3.2km、城郭最大の難所は、C地区の仙台濠です。

10年前から、仙台濠を知っていただこうと千代田区で講演しています。又、仙台濠の石碑建立をして、後世に残す活動をして、仙台濠の歴史的偉業を残す努力をしています。

【D地区担当】 荘 敬典

40年強の会社生活を終え自宅周辺のウォーキングに勤しむ中、道々にその歴史を伝える標柱や説明版を目にします。

「広報 千代田」で、文化財の調査などを業務とする文化財保護調査員募集を知り応募しました。幸い調査員を拝命され、平成26年度から、担当地域での文化財のパトロール及び「近隣の道路や水路の成り立ち・変遷について」を調査テーマに掲げ活動をしています。

調査テーマについては多分に先人の道をなぞるだけになるかも知れませんが、活動全般を通して得られる近隣の成り立ちについての知識と理解を、若い世代に伝えられればこの上ない喜びです。

【E地区担当】 深井 俊子

音楽の早期教育の必要性を説き、戦後日本の西洋音楽教育の現場を牽引した音楽教室のひとつ「子供のための音楽教室」から「サイトウ・キネン・オーケストラ」への足跡を追いながら、千代田区に関わりのある音楽家、特に明治期の西洋音楽家たちの活躍を出版物や資料から調べています。

幸田延・幸姉妹、滝廉太郎、三浦環、近衛秀麿そ



して、斎藤秀雄など、多くの音楽家が区内に住んでいた時期がありました。彼らの生涯や人間関係を辿ることからみえてくる千代田区の明治という時代に興味が尽きません。

【F地区担当】 安田 律子

私は麴町と個人商店の関係について調査を行っています。特に麴町でもかつて元園町という地名があった場所に焦点を当てています。この地は麴町の中でも商店街が広がっていた場所ではなく、周りが住宅地であった場所です。

平成26年度の調査では、麴町の歴史を明治から現在まで調べることで、地域の特性について知ることができました。かつてのお屋敷が広がっていた町並みから、マンションやオフィスビルが林立する風景へと変わった背景は、平成生まれの私には驚きでした。今後は個人商店という視点にしばって、その関係とさらに今後の展望まで考察したいと考えています。

【G地区担当】 西田 滋

神田明神本殿裏にロゼッタストーンに似た形の石碑があります。この記念碑は、関東大震災後の大正14年8月子供たちのために神田区鍋町につくられた児童遊園が数年で廃園となりましたが、そこに所在したことを記念して昭和2年10月に有志が建てたものです。その児童遊園は神田のどこにあったのか、なぜ数年で廃園になったのか、今回の私のテーマです。さまざまな資料（帝都復興事業大観、帝都復興史、当時の地籍台帳・地籍地図など）を調べました。

その結果、現在の三菱東京UFJ銀行神田支店のああたりではないかと推量しますが、確定ではありません。さらに資料を渉猟して突き止めたいと思います。



文部科学省構内から発見された戦時中資料

今号の埋文ニュースは、戦後70周年を記念して開催する平成27年度文化財企画展に出品する太平洋戦争中の防空訓練で使用された銃器類と防空壕を紹介します。(後藤)

教育委員会は、文部科学省庁舎の再開発事業により、埋蔵文化財発掘調査(平成14~20年度)を実施し、江戸城外堀跡や内藤家上屋敷跡などが発見され、庁舎整備にあわせて外堀石垣の保存整備を行いました。

この発掘調査のなかで、旧庁舎中庭から太平洋戦争時の防空壕が3基発見され、中から戦時中の食器類とともに多数の銃器類が発見されました。

その内訳は、鉄帽59点、小銃49挺、教練用機関銃1挺、演習用弾筒2門、模擬銃部品6点、擬製手榴弾9点、銃剣25挺、軍刀1振りとなります。これらが使われていた時代は、一緒に出土した陶磁器類の記号などから、昭和16年から同20年の期間で、まさに戦中の遺物となります。このうち小銃は、日露戦争で使われた三十年式歩兵銃が多数を占め、その他太平洋戦争時の主力銃であった三八式歩兵銃がありました。また、銃器類の中には、訓練専用の模擬銃や手榴弾も多く見受けられ、これらの銃器類が訓練用のものであることが想定されます。

旧文部省には、昭和10年に丸ノ内青年学校が開校されていることから、防空壕内から出土した遺物は、青年学校で軍事教練として使用していたもので、戦後に廃棄されたと考えられます。これらは、戦時中の学校での軍事教育を示す具体的な資料といえます。



教練用軽機関銃



防空壕



鉄帽



擬製手榴弾

日比谷図書文化館文化財事務室では、区立小学校・幼稚園の適正配置の際に移管された学校資料を保存管理しています。

今年の3月には、学校資料の中から、学童集団疎開に関する記録を調査報告書として刊行しました。

日誌には、疎開先の学寮（宿舎兼学校）での日々の生活の様子が記録されています。調査報告書では、学校資料に含まれる

日誌全冊を翻刻しました（A4版・全208ページ、一部700円で販売中）。

日誌の一部は、平成27年度文化財企画展「学童疎開からみる子どもたちの生活」（7月21日～）（本号表紙参照）にて展示します。（高木）

※学校資料は、調査継続中のため一般公開していません。

国史跡常盤橋門跡・常磐橋解体修理現場見学会を開催します

現在、千代田区と中央区の区境にかかる常磐橋は、江戸時代には江戸城と町人地を隔てる外堀に架けられた橋でした。この常磐橋は、実際に供用されている橋としては、都内現存最古の石橋として知られていますが、現在落橋の危険性があり、修理工事を行っています。

今回の現場見学会では、普段は立ち入ることのできないアーチ石の解体途中の石橋内部を公開し、常磐橋の歴史や文化財修理の方法などを解説します。（要申し込み）

当日の概要や応募方法の詳細は、「広報千代田」7月20日号、日比谷図書文化館文化財事務室のHPに掲載しますので、ご確認ください。

開催日時 ※少雨決行（荒天中止）

- (1) 平成27年8月9日(日)
午前 10:00～11:30、
午後A 13:00～14:30、
午後B 15:00～16:30
- (2) 8月10日(月) 13:00～14:30
- (3) 8月11日(火) 13:00～14:30

定 員

各回とも25名程度
※小学5年生以上（小学生は親子同伴）で
工事用足場を昇降できる方

応募方法

氏名、連絡先、参加人数、見学希望日・
時間帯（第2希望まで）を記載の上、
往復はがきでご応募ください。
※平成27年7月31日必着
・応募多数の場合は抽選となります。

応募先

〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1-4
千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室



都営地下鉄 ●三田線—「内幸町駅」徒歩3分
東京メトロ ●千代田線
●日比谷線 } 「霞ヶ関駅」徒歩5分
●丸ノ内線

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10:00～22:00
土 10:00～19:00
日・祝 10:00～17:00

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休 館 日 毎月第3月曜日
年末年始
特別整理期間

文化財ニュース 第8号 (2,000部)

発行日 平成27年7月17日
編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL: 03-3502-3348 FAX: 03-3502-3361
HP: <http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html>
e-mail: rekimin@vesta.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 報 光 社